

さくらっこ便り 2026年1月17日号

さくらっこ広場通信 第155号

明けましておめでとうございます

子どもたちの育ちは希望に満ちています。今年が希望の年になることを確信します。

今日も元気なさくらっこ親子の皆さんと大勢集まってくれました。

今日で保育室前の「砂場」と「梅の木」にお別れをしなければならないことを惜しんで、子どもたちは懸命に自分たちの思いを表現してくれました。



必死で「落とし穴」を掘り始めた子どもたち



落とし穴を枯れ枝で隠す、忍者たち？4歳から5年生たちが、懸命に力を合わせた「共同の遊び」

が、展開します。「力を合わせて」なんて、誰も言いません。大人たちは、圧倒されてみていました。

圧倒されながら、お母さんたちの会話は、桜の聖母学院の歴史ある校地内自然環境で育ってきた子どもたちへの、育ちへの感動でした。この日に立ち会いたいと、東京から菊地知子先生と森藤郁子先生も来て

くださいました。また、こども保育コース1年生が3名、元気に参加してくれました。

このような場に立ち会えた私たち皆が、子どもの育ちそのものが希望だという思いを共有しました。



「堂々と木登りができる場が、他にない」と、保護者の皆さんが出でます。また、梅の実をみんなでとって、シロップを作ったり、「梅屋」になって配給したり、遊びは限りなくつながりました。

梅の木にハンモックをつるしてもらって、気持ちよく揺れた日もありました。



紙粘土で作ったのは、「梅の木」だそうです。木に登って、つぼみの芽吹きも確かめできました。



保育室の中では、年齢の高い小学生たちから、2歳の子どもまで、お互いを感じながら、今日も芸術家たちが紙粘土で遊びます。



今日の傑作、2匹のイルカ（1匹は「アルビノ」だそうで）はアイロンビーズで作りました。



ハートもいろいろです。出来上がった経過もいろいろですが、とてもうれしそう。



真剣そのもの



「満足」を求めて、楽しむなかで、豊かな関係が育ち続けます。紙粘土のハートで四つ葉のクローバー



朝一番の「試作」から、お姉さんの代わりにやってくれました。中学2年Hくんは、今日はボランティアスタッフとして、小さい子どもたちをリードしてくれます。



次々と後に続く人たちが出てきます

「やりたいこと」ができるように学生はお手伝い



中2のHくんは見守ってくれます

小5のMちゃん もう、慣れています



牛乳を計量してもらって、あとはひたすらかき混ぜる人たち



子どもたちの傍らで、保護者の皆さんはそれぞれ、お話しします

年の違う子ども同士、保護者同士の交流の中で、みんなが見事に育っていくことがわかります。

この「広場」を見守ってくれた梅の木に、感謝して、今日も楽しく広場を終えました。

みんなまた、遊びに来てくださいね！



さようなら梅の木



落とし穴の上に枯れ枝をたっぷりとかけた砂場

3月のさくらっこ広場 開催予定

■ 3月 20日（金・祝） 1年生の劇遊びにご招待！

1年生が広場の皆さんのために劇遊びを行います。高校生も参加するオープンキャンパスとの合同開催で、講堂でぎやかなステージをお楽しみいただけます。

☆10時から保育室を開けます。ステージの準備が整いましたら、講堂にご案内します。

参加の方は、前日までに狩野奈緒子宛てにメールでお申し込みください。

連絡先) 狩野奈緒子（桜の聖母短期大学）naoko-k@ssjc.ac.jp